

【別紙2】

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 静岡県 】 学校名 静岡市立清水両河内中学校

1 実践テーマ	【 II、III 】
2 実施対象者	全校生徒：1年（7名）、2年（12名）、3年（15名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合、道徳 ） ② 行事名（ 福祉体験、全校道徳 ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・選手との交流や体験を通して、「障がい」や「障がい者」についての理解を深める ・障がい者や高齢者との交流の手立てとしての、パラスポーツの意義を学び、意欲を高める ・選手との交流や体験を通して、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める
5 取組内容	【事前学習】 ・教育委員会作成の事前アンケートによる意識調査 ・SDGs に関する授業の中で、福祉教育の必要性を提起 【当日の活動】 ・講師によるボッチャの説明 ・ボッチャ体験（体育館内に3面） 【事後学習】 ・教育委員会作成の事後アンケートと感想用紙で振り返り ・事前、事後のアンケートの集計、比較と成果についての考察 ・福祉施設を訪問し、高齢者、障がい者とボッチャで交流

6 主な成果	【アンケート結果より】 ・『オリンピック・パラリンピックの種目を自分もやってみたい』と思う生徒が増えた ・『オリンピック・パラリンピックやプロの試合を見に行ってみたい』と思う生徒が増えた →ボッチャをはじめとするオリンピック・パラリンピックの種目を身近に感じ、その楽しさを感じることができた ・『「年れい」「男女」「障害がある・ない」に関係なく、いろいろな人とスポーツをしてみたい』と思う生徒が増えた →パラスポーツを通じて、幅広くさまざまな人と交流ができることを学ぶことができた 【生徒の感想より】 ・体の不自由な人も楽しんでできるボッチャはすごいな、と思い感心しました ・見ていて簡単そうだったけど、やってみてとても難しかった ・展開がコロコロ変わるのでやっていて楽しかった ・ボッチャのことを家の人や地域の人にも広めたい ・持ちやすく、投げやすいボールで工夫されているなと思った ・両河内は高齢化が進んでいるのでボッチャのような誰でも楽しめるスポーツはこれからの地域との活動でも行っていきたい
7実践において工夫した点 事業の特色	・2、3年生の一部の生徒は、昨年までにボランティアで福祉施設を訪問し、その際の交流のきっかけとして、ボッチャを体験しており、指導者と共にルールがわからない生徒に教えることができた ・今年度は、この交流会で学んだ知識とスキルを活かして、福祉施設を訪問し、障がい者や高齢者との交流を深めることができた ・小規模校であるため、3セットの器具で全校生徒が同時に種目を体験することができ、見学と講習のみの交流会ではなかった ・教育センターからの器具の貸し出しと、空き教室を利用することで休み時間にボッチャを楽しむことができる状態を作ることができた
8主な課題等	・競技を行う人数が最大6名ということで、規模の大きな学校では見学のみとなってしまう可能性が高い
9来年度以降の実施予定	・引き続き福祉施設訪問と関連付けながら、福祉教育としての取り組みの一環としてボッチャによる交流を続けていきたい ・小、中一貫教育の切り口として合同開催による交流会を行う ・今年度の1、2年生が指導者役となり、来年度入学する新1年生にボッチャのルールを教える機会をつくる